

令和元年度 看護実践研究指導事業報告

I. 本事業の目的と実施概要

本事業の目的と実施概要

I. 本事業の目的

平成13年度から引き続き、県内看護職が大学の知的資源を利用して自己学習や業務改善ができるようにすることを旨とし、看護の実践研究指導・研修の事業として取り組んだ。

事業の実施に際しては、単に研修や指導を行うのではなく、県内看護職の現状を把握して、現場の実態に即応した適切な指導・研修の方法を模索しながら行うこととし、現職者自身による問題解決を促進していくことを重視している。他方、大学としては、これらの活動をする一方で、今後の学部・大学院教育の充実を図り、特色ある活動を導くことを念頭においている。

したがって、本事業はその目的において下記のような特徴を備えている。

- ・ 県内看護職が大学の知的資源を利用して自己研鑽や日常の業務改善ができるようにすることを旨とする看護の実践研究に関する事業である。
- ・ 県立大学であることを強く認識し、看護学の高等教育機関の社会的使命や在り方を踏まえて県内看護職の質の向上を実現する一つの手段として取り組む事業である。
- ・ 単に知識伝達型の一方通行的な講義で行うのではなく、大学教員が現場に出向いて県内看護職の現状を把握することを基本とする、県内看護職やその実践の実態に即応した適切な指導・研修の方法を開発する、県内看護職自身の主体的問題解決を促進する、などを重視する事業である。
- ・ 看護学科や大学院看護学研究科の教育研究環境の一層の充実を図り、本学で育成した人材の県内施設への就業と定着しやすい環境づくりを目指して取り組む事業である。

II. 本事業の研修方法

研修方法は、教員が対象に合わせて創出することとしているが、①教員が看護職者の現場に出向いて現状を把握し、②看護職者や看護実践の実態に応じた指導・研修方法を開発しながら取り組むもので、③看護職者自身の主体的な問題解決を促すことを重視してきている。

また、看護職者の主体的な実践研究の実施を奨励すること、岐阜県という広範な地域を視野に入れてケアサービスの質向上を目指すこと、課題解決に向けた方策を研修受講者同士が話し合っ創出すること、少人数配置など研修機会が得られがたい看護職者を対象にした研修を企画・実施すること、研修機会を通じた他施設との交流や看護職者同士のネットワークづくり等にも留意してきている。

したがって、本事業の研修方法の要件を整理すると以下ようになる。

- ・ 県内看護職が日ごろ実施している看護実践活動の実態と課題を確認し、彼らが提供する看護実践の質向上を図る上で有効であるとして大学教員が企画した研修である。
- ・ 特定施設や特定地域に限定することなく、提起した課題に関する研修は、県内全域の状況に対して責任を持って企画することを基本とした研修である。
- ・ 専門職である県内看護職に対して、自己の技術や実践方法の改善・充実について研究的取り組みを行う看護実践研究の実施を大学として奨励することを手段としつつ、主体的専門職者育成を前提にして企画した研修である。

Ⅲ. 今年度事業の実施

本事業には、大学と岐阜県内の看護実践現場の看護職者との連携や組織的関係を強化するという観点から、看護研究センターの教員が本事業の全体的な調整や報告書の取りまとめを担当している。

年度当初の4月22日（月）正午を締め切りとして学内から事業課題の募集を行った。その結果、今年度は、表1に示した8事業課題（新規2、継続6）が申請され、5月20日（月）13時から開催された第1回看護研究センター運営委員会で各事業課題の計画と予算が承認され、事業開始となった。

表1 令和元年度看護実践研究指導事業の実施一覧

No.	開始年度	事業課題名	担当者
0101	平成24年度 (8年目)	利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	地域基礎看護学領域： 藤澤まこと、黒江ゆり子、杉野緑、 加藤由香里、渡邊清美 機能看護学領域：橋本麻由里 看護研究センター：田辺満子 岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課：若原明美
0102	平成25年度 (7年目)	地域における母子保健活動の充実に向けた研修会	育成期看護学領域： 服部律子、布原佳奈、名和文香、山本真実、 武田順子、松山久美、尾関麻衣子、田中真理、 齋藤朋世 看護研究センター：小森春佳
0103	平成27年度 (5年目)	看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援	機能看護学領域： 両羽美穂子、橋本麻由里、古澤幸江 水野優子、宗宮真理子、安田みき 看護研究センター：田辺満子
0104	平成28年度 (4年目)	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	成熟期看護学領域：奥村美奈子、布施恵子 地域基礎看護学領域：藤澤まこと 育成期看護学領域：服部律子 機能看護学領域：橋本麻由里 看護研究センター：黒江ゆり子、茂本咲子
0105	平成28年度 (4年目)	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	育成期看護学領域：長瀬仁美、山本真実 機能看護学領域：松本訓枝
0106	平成30年度 (2年目)	岐阜県における End-of-Life Care 充実に向けた研修会	成熟期看護学領域： 奥村美奈子、布施恵子、宇佐美利佳、 鳴海叔子
0107	令和元年度 (1年目)	地域の実態に即した子育て支援の充実に向けた保健師の役割を考える研修会	地域基礎看護学領域： 大井靖子、山田洋子、吉村 隆、堀 里奈、 岡本美和、森仁実、北山三津子 看護研究センター：大川眞智子、松下光子
0108	令和元年度 (1年目)	看護実践研究学会への研究支援	看護研究センター： 大川眞智子、松下光子、田辺満子、茂本咲子、 小森春佳

IV. 今年度事業の運営

各事業課題の予算は表 2、研修実施状況は表 3 のとおりである。

研修会の開催を月別にみると、8月に3つ、9月に2つ、11月に2つ、12月に2つ、1月に1つ、3月に1つの計11の研修会が開催されている。実施会場はほとんどが学内である。研修方法は研修会開催が多いが、個別訪問面接研修という実施方法をとっている事業は「地域の実態に即した子育て支援の充実に向けた保健師の役割を考える研修会」と「看護実践研究学会への研究支援」である。

表 2 令和元年度看護実践研究指導事業の予算

No.	代表者	事業課題名	予算
0101	藤澤まこと	利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	610,020
0102	服部律子	地域における母子保健活動の充実に向けた研修会	221,498
0103	橋本麻由里	看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援	151,151
0104	奥村美奈子	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	104,688
0105	長瀬仁美	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	69,960
0106	奥村美奈子	岐阜県における End-of-Life Care 充実に向けた研修会	253,500
0107	大井靖子	地域の実態に即した子育て支援の充実に向けた保健師の役割を考える研修会	32,039
0108	大川眞智子	看護実践研究学会への研究支援	244,400
小計			1,687,256
共通	報告書作成等		300,000
合計			1,987,256

表 3 事業別の研修実施状況

No.	事業課題名	今年度の実施状況
0101	利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	退院支援教育プログラム研修 2019 【フォローアップ研修】開催日：令和元年 8 月 28 日（水） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：46 名 【アドバンス研修】 （第 1 回）令和元年 8 月 28 日（水） （第 2 回）令和元年 9 月 26 日（木） （第 3 回）令和元年 11 月 26 日（火） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：14 名
0102	地域における母子保健活動の充実に向けた研修会	研修会「妊娠期からの切れ目のない母子支援－周産期のメンタルヘルスケア－」 開催日：令和元年 11 月 26 日（火） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：49 名
0103	看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援	ワークショップ「看護の専門性を高めるマネジメントについて考える～医療機関において地域包括ケアを推進する看護専門職のマネジメントに焦点を当てて～」 開催日：令和元年 12 月 14 日（土） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：19 名

0104	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	研修会テーマ「倫理調整の視野を広げよう！専門領域を超えた CNS による事例検討会」 (看護実践研究学会第 1 回学術集会との合同企画) 開催日：令和元年 9 月 7 日（土） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：22 名
0105	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	第 1 回テーマ「養護教諭の危機管理の在り方」 開催日：令和元年 8 月 24 日（土） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：19 名 第 2 回テーマ「学校保健活動のコーディネーターとしての養護教諭の在り方」 開催日：令和元年 12 月 14 日（土） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：25 名
0106	岐阜県における End-of-Life Care 充実に向けた研修会	ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム受講者を対象としたフォローアップ研修会 開催日：令和 2 年 1 月 11 日（土） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：25 名
0107	地域の実態に即した子育て支援の充実に向けた保健師の役割を考える研修会	個別訪問面接：令和元年 9 月～10 月に 17 名に対して実施 研修会：令和 2 年 3 月 10 日（火）実施予定 研修対象者：市町村保健師、保健所の母子保健担当保健師、県の子育て支援担当保健師
0108	看護実践研究学会への研究支援	平成 30 年度に支援を開始し、令和元年度も引き続き支援した研究課題は 5 題で、支援対象は病院（延べ 5 施設）の看護師 9 名。 令和元年度に支援を開始したのは 2 題で、支援対象は病院（延べ 2 施設）の看護師 4 名。

各事業の代表者および看護研究センター教職員が出席する「代表者等会議」を 5 月と 12 月の 2 回開催した（表 4）。5 月の会議は、第 1 回看護研究センター運営委員会の開催前の 5 月 15 日（水）17 時より開催し、今年度の事業目的・計画の共有及び検討を行い、予算配分の調整を図った。12 月 12 日（木）17 時より開催した第 2 回の会議では、中間報告として、今年度の実施内容・成果・課題等を確認・共有し、今後の取組みに向けて協議した。

表 4 代表者等会議の開催概要

日程	参加者	内容
第 1 回 5 月 15 日（水） 17:00～19:00	代表者：藤澤、名和（代理）、橋本、奥村、長瀬、大井、大川 看護研究センター：黒江、会田、松下、田辺、小澤、茂本、小森	・昨年度の予算執行状況報告 ・今年度の各研修の目的・計画の報告、充実に向けた検討 ・予算配分の検討・調整
第 2 回 12 月 12 日（木） 17:00～18:30	代表者：藤澤、小森（代理）、橋本、奥村、長瀬、大井、大川 看護研究センター：黒江、会田、松下、小澤、茂本	・今年度の実施内容、予算執行状況、看護職者の反応、成果・課題の報告 ・次年度の活動の方向性などの検討 ・報告書原稿の執筆要領の説明

本事業の実績と成果を明示するために、平成 21 年度からは本事業報告書を PDF 化し、本学ホームページにて公表してきたが、27 年度から本事業報告書を本学リポジトリで公開することを開始し、倫理面に関して十分に配慮するよう執筆要項に明示するとともにリポジトリでの公開にあたって事業ごとに 3～5 個のキーワードを付けてもらっている。

事業ごとの自己点検評価は、①実践の場にも与えた影響、②本学の教育・研究活動にも与えた影響、③看護職の生涯学習ニーズ、④事業実施上の困難な点・課題、⑤今後の発展の方向性の 5 点である。

IV. FD 研修会の開催

平成 29 年度に本事業で実施した研修の 16 ヶ年の実績をとりまとめた冊子を 400 冊印刷・刊行して学内外に配布したので、この冊子をもとにして平成 29 年度末に看護研究センターと教育能力開発委員会の共同企画で『看護実践研究指導事業のこれから』をテーマにした FD 研修会を開催した。平成 30 年度も同じテーマで前年度の議論を継続することを目的として、同様に FD 研修会を開催した。

本事業の成果を共有する場として、共同研究事業の「共同研究報告と討論の会」のような報告会が開催できればよいが、年度末にそのような場を設けて全教員が参加するのは日程調整の面で難しいという問題がある。したがって、このような FD 研修会の形で本事業の成果を共有しながら本事業の意義と今後の方向性を考えていくのは有効な方法であると思われる。今年度は FD 研修会を開催しなかったが、隔年開催など定期的な形で FD 研修会を企画・開催することを次年度は検討する予定である。

これまで開催した FD 研修会の概要は以下のとおりである。

【平成 29 年度の開催日】平成 30 年 3 月 7 日（水）

【平成 29 年度のプログラム】

時間	内容・担当	場所
13：00～13：10	研修会の趣旨および進行の説明（大川） 看護実践研究指導事業の趣旨・目的について説明（会田）	講義室 203
13：10～13：55 （各 15 分）	事業紹介（45 分） ・取組開始の経緯（取組の必要性、他事業等との関連を含む）、 趣旨・目的、取組内容、その成果と課題、今後の方向性 ①利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援（藤澤） ②地域における母子保健活動の充実に向けた研修会（布原） ③看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援（両羽）	
14：00～14：30	グループワーク（30 分） ・事業報告を聞いて看護実践研究指導事業の取組内容・方法等について考えたこと、看護職者の支援ニーズは何か、今後新たに必要と考えられる看護実践研究指導事業の取組は何か、等を意見交換する。	講義室 203 演習室 200～203

【平成 30 年度の開催日】平成 31 年 3 月 6 日（水）

【平成 30 年度のプログラム】

時間	内容・担当	場所
13：00～13：05	研修会の趣旨および進行の説明（大川）	講義室 203
13：05～13：50	事業紹介 各 15 分 ・取組開始の経緯（取組の必要性、他事業等との関連を含む）、 趣旨・目的、取組内容、その成果と課題、今後の方向性 ①県内の過疎地域診療所等の看護職者への研修（森） ②県内の高齢者ケア施設の看護職者への研修（古川） ③岐阜県における End-of-Life Care 充実に向けた研修会（奥村）	
14：00～15：00	グループワーク（60 分） ・事業報告を聞いて看護実践研究指導事業の取組内容・方法等について考えたこと、看護職者の支援ニーズは何か、今後新たに必要と考えられる看護実践研究指導事業の取組は何か、等を意見交換する。	講義室 203 演習室 200～204